

西暦 2026 年 1 月 6 日

2024 年 12 月にルネサスエレクトロニクス株式会社・大分工場で
健康講話後のアンケートにご回答いただいた従業員の方へのお知らせ

産業医科大学リハビリテーション医学講座では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、実施したアンケートの結果に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (2022 年 3 月 23 日制定 2022 年 6 月 30 日施行)」により、対象となる従業員のお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の回答情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

勤労者のロコモティブシンドロームおよびフレイルと転倒の関連についての検討

2. 研究期間

2025 年 5 月 14 日～2028 年 3 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学リハビリテーション医学講座

4. 研究責任者

産業医科大学リハビリテーション医学講座 講師 伊藤英明

5. 研究の目的と意義

この研究は伊藤英明を研究責任者とする単機関研究です。

ロコモティブシンドローム (ロコモ) は、日本整形外科学会が 2007 年に提唱した概念で、「運動器のいずれか、あるいは複数に障害が起こり、移動機能が低下している状態」と定義され、ロコモが進行すると介護が必要となるリスクが高まります。ロコモの原因には加齢、運動不足、活動量の低下、変形性膝関節症や変形性脊椎症などの運動器疾患などがあり、筋力低下やバランス障害、疼痛などが移動能力を低下させるとされています。またフレイルは身体的脆弱性、精神的・心理的脆弱性、社会的脆弱性など多面的な問題を抱えやすく、健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味します。ロコモやフレイルは適切な対策により予防・改善が期待できると

考えられており、勤労者の現状を把握し、早期から予防および改善のための対策を実施することが重要です。

[目的]

健康講話後に実施したアンケート調査を解析し、従業員のロコモやフレイルの認知度と自己評価および転倒の現状を把握し、同工場におけるロコモやフレイルと転倒との関連を検討することを目的とする後方視研究です。ロコチェックの該当項目の有無と転倒との関係を解析することで、今後の転倒予防対策や啓蒙活動につなげることを目的とします。

[意義]

ロコモの現状把握の方法としてロコモを疑う際に用いる7つの項目からなるロコチェックを使用します。フレイルについては簡易フレイルインデックスを使用します。これらの評価結果により簡易的に従業員の転倒リスクを把握できる意義があります。

6. 研究の方法

健康講話後にご回答いただいたアンケートについて解析します。

7. 個人情報の取り扱い

個人情報の公開はいたしません。データの解析の際には被験者を特定できないように氏名、住所などの個人情報を全て匿名化します。この研究は既存の情報を利用するため、対象者からのインフォームド・コンセントは必ずしも必要ではありませんが、研究参加の拒否は自由です。研究への参加にご同意いただけない患者さんは下記問い合わせ先にご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。

8. 問い合わせ先

ルネサスエレクトロニクス株式会社大分工場 健康管理室 坂田美佳

TEL 0979-33-0020

産業医科大学病院 リハビリテーション医学講座 講師 伊藤英明

TEL 093-691-7266

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。